

令和4年度第3回埼玉県立図書館協議会 議事録

◇ 日 時

令和5年2月14日（火）午前10時00分から11時45分まで

◇ 場 所

埼玉県立文書館 3階 講座室 さいたま市浦和区高砂4-3-18

◇ 出席者

（1）出席委員

須田俊弥委員、宮崎正子委員（オンライン）、尾崎尚子委員、後藤悦子委員、文屋芳浩委員、青野正太委員、小澤嘉昭委員、神原和子委員、後藤愛委員、澁谷知範委員、西山富由紀委員、松本直樹委員

（2）図書館職員

【熊谷図書館】

加藤健次館長、川目晴久副館長、峰岸まり子副館長、宮崎達弥担当課長

【久喜図書館】

上松寿明館長、蓮見博副参事兼副館長、高野治子主席司書主幹、関信子司書主幹、須藤ゆみ子主任司書、久保田崇子司書

（3）教育局職員

高津導生涯学習推進課長、中澤幹雄生涯学習推進課副課長

◇ 会議次第

1 開 会 熊谷図書館 川目副館長

2 あいさつ 熊谷図書館長 加藤 健次

3 会議録署名委員の指名

会長が須田委員と尾崎委員を指名し、了承された。

4 会議を公開することについての議決

会長が会議を公開とする旨を発言し了承された。

また、本日の会議では傍聴者はいないことが確認された。

5 議事

（1）埼玉県立図書館の児童サービスと子ども読書支援センターについて

資料1「埼玉県立図書館の児童サービスと子ども読書支援センターについて」に基づき説明

【質疑】

委 員：多言語の絵本3,700冊を県立図書館で所蔵されているという話でした。それぞれの自治体でも多言語の絵本を所蔵していると思いますが、埼玉県全体として絵本の書誌情報の共有ができれば、埼玉県内にいろいろな文化的背景を持つ人たちが母語保持の観点からも絵本を探すことが容易

にできるのではないのでしょうか。そこで書誌情報の共有がどのくらい進んでいるのかお伺いしたい。

事務局：子ども読書推進担当では、県内の多言語の絵本などに関する書誌情報の共有化について対応ができていない状況です。日本語以外を母国語とする子供たちが増えていると認識しています。「わいわい文庫」という公益財団法人伊藤忠記念財団が製作したマルチメディアDAISY図書がありますが、その図書は音声と画像、テキストを一緒に見ることができます。当館ではこれらを使って日本語を学んでもらっています。様々な文化的背景を持つ子供たちが今後、増えていく中で情報共有についても考えていきたいと思えます。

委員：書誌情報の共有について総合目録である程度は対応できていると考えられます。一方で基礎自治体における総合目録での書誌の入力には十分でない部分もみられるのが現状で、必ずしも必要な情報が検索できるとは限らないと思えます。その点を課題としてとらえていただいて、基礎自治体の持っている情報を集約できたほうが県民の方へのサービス向上につながるのではないかと思います。

委員：子ども読書支援センターがあるということですが、学校図書館支援センターの役割を担ってはいないということでした。説明では小学校、中学校の支援は行っているとお聞きしましたが、高校の学校図書館への支援は県立図書館としてどのように行っているのでしょうか。

事務局：久喜図書館の情報・地域協力担当において昨年度から高校の学校図書館の司書、司書教諭の方に対して講座を実施しています。内容としては、今年度から実施されている学習指導要領において探究学習が重視されていることから、探究学習の支援について行いました。具体的な内容としては、県教育委員会が文部科学省から補助金を受けて実施していた「おがわ学」に学校図書館として取り組んだ内容や大宮高校と不動岡高校のウィキペディアタウンの授業について担当した教員や司書の方から情報提供をいただきました。今後も継続して高校の支援を行ってまいります。なお、昨年度はまだ学習指導要領が本格実施されていなかったこともあり、十数名の参加に留まりましたが、今年度は23名の参加がありました。

事務局：熊谷図書館でも図書館協力担当で年1回、高校との連絡会議を開催しています。そこで相互に情報共有を行っています。また、今年度は各地域の高校のまとめ役の方から県立図書館への要望をいただき、それについての県立図書館としての考え方を伝えています。これらのことから県立図書館と学校図書館との連携や支援の重要性について再認識をしました。来年度はアンケート調査などを実施して支援の在り方などの課題について整理

したいと考えています。

委員：最近、STEM教育、STEAM教育やプログラミングにかかわる教育、そしてMaker spaceを使った教育などが行われていますが、個々の自治体で新たにはじめるというのは難しいと思います。県立図書館で基礎自治体のモデルケースとなるような新しいことに取り組んでみてはどうかという意見を持ちました。

委員：ボランティアのスキルアップ講座を行っているのは素晴らしいことだと思います。読み聞かせサークルの把握や読み聞かせサークルの活動の場である学校と図書館をつなぐ取組みなど地域の活動をより活性化するようなことに取り組まれているのでしょうか。

事務局：スキルアップ講座などの講師派遣事業を展開していることを子ども読書支援情報誌「Shien」で県民の方にお知らせしています。「Shien」は県内全ての小中学校に配布しています。また、ボランティアになりたい方から問い合わせをいただいたときには活動している団体などを紹介しています。取組みを進めてはいますが、広報が不足しているのかボランティアの方が増えていかないという状況です。そのため読み聞かせボランティアの方が幼稚園や小中学校で継続して活躍できるような環境づくりに取り組んでいきたいと思っています。

委員：資料の「他機関と連携した事業」で歴史と民俗の博物館と連携した事業を行っているようですが、すでに埼玉サーチで連携を行っていると思いますが、具体的にはどのような連携なのか人事交流はしているのかお聞かせいただきたい。

事務局：今年度は歴史と民俗の博物館と連携を行いました。内容としては学芸員の方に図書館に来ていただいて子供向けのイベントを開催しています。博物館の学芸員の方との人事交流は行っていません。

会長：児童図書多くの蔵書があるなかで18,000冊を公開しているということですが、どのように選書しているのでしょうか。

事務局：市町村立図書館の方を対象に図書を紹介する新刊展示から一般の方を対象とした子ども図書室新着コーナーに移す際に職員で構成する会議により書庫に入れるかどうかの選書を行っています。公開にある児童書は子供たちに手に取ってほしい本という観点から必ずしも新しい本ということではなく、出版年の古い児童書でも定評あるものは、公開に置くようにしています。

会長：現在、多くの方に親しまれているような基本的な絵本が絶版になっていることが多くみられます。新しい本を保存するために古い本を処分せざるを得ないという状況もあります。多くの方に親しまれている本を再版し

ていただくような働きかけを県立図書館という立場では難しいかと思いますが、お考えいただければと思います。

会長：埼玉県の高校に勤務する司書さんは様々な取り組みをしていて素晴らしいと思います。また、その中にリーダー的な方もいます。飯能高校の司書の方のユニークな取り組みが新聞にも取り上げられていましたが、人を呼び寄せるような図書の展示など公共図書館でも取り入れられるようなことを研修の内容として取り上げてみてはどうでしょうか。

事務局：高校図書館との交流ですが、高校の夏期研修などで県立図書館の司書が講師としてお話をさせていただいています。会長からお話があった飯能高校のユニークな取り組みや効果的な広報についても、参考になると考えています。

会長：公共図書館で人気のあるコミックなどで人を呼び寄せるというのはなかなか難しいと思いますが、ユニークな展示で人を集めるということも必要ではないかと思います。

事務局：ボランティアに関することでご説明を差し上げます。埼玉県教育委員会のホームページには「子供読書活動関連ボランティア団体情報」というページがあります。そこでは県内で子供読書活動の推進に携わるボランティア団体等を一覧として掲載していますのでご覧いただければと思います。

(2) 埼玉県立図書館の健康・医療情報サービスについて

資料2「埼玉県立図書館の健康・医療情報サービスについて」に基づき説明

【質疑】

委員：久喜図書館がこれだけ多くの健康・医療に関する資料を揃えているとは知りませんでした。高齢社会にあって認知症や介護が身近になっています。公立図書館で県民の方に対して健康・医療についての支援をしていたらということはあるかと思いました。

委員：利用者は実際に本を手にとって調べたいということがありますが、ガイドがあったとしても健康・医療分野ではレファレンスサービスが重要となると思います。そのレファレンスサービスについて多くの研修を行っているとお聞きしました。また、多くの資料等を県民の方向けに提供されているようですが、資料の中にURLが掲載されているものを次回の改訂の際には2次元コードで容易に表示できるような配慮をしていただけないでしょうか。

事務局：2次元コードの掲載については改訂の際に検討させていただきます。なお、冊子の電子版についてはWebサイト上にアップさせていただいており、Webページのリンクから表示されるようにしています。

委員：説明を受けて様々な資料が整っていると知りました。ただ、実際に図書館に行かないとわからないような資料もあります。埼玉県ホームページから例えば「がん」について検索したときに図書館で作成している「健康・医療情報リサーチガイド@埼玉」に掲載されている情報にたどり着くのでしょうか。

事務局：埼玉県ホームページからは「健康・医療情報リサーチガイド」を紹介するページにリンクを貼っていないので、直接、県立図書館ホームページで検索していただかないとリサーチガイドを表示することができません。

委員：埼玉県がどのような取組みをしているか調べたいときに埼玉県ホームページで検索をするので埼玉県ホームページに掲載すれば情報提供に広がりがあるので、利用者が増えるのではないのでしょうか。

委員：リサーチガイドやちらしですが病院や医療関係機関などにも置かれているということですが、多くの医療に関する情報が掲載されているので医療関係だけではなく人が集まるような場所に冊子を紹介するようなちらし等を置くといいのではないのでしょうか。実際に冊子自体を配布しなくてもWebサイトで冊子を見ることができるので活用されるのではないのでしょうか。

委員：健康・医療という観点からすると病気になる前の健康情報とかスポーツに関する事なども提供すべき情報に含まれるのかと思います。健康増進やスポーツ施設、スポーツ教室などつなぐ取組みも必要だと思います。その点については考えがあるのでしょうか。

事務局：現在のところは健康増進関連の施設やスポーツ施設などとの連携までは行っていません。フレイル予防やスポーツ関連の図書などは久喜図書館が所掌していますので、図書での情報提供を行っています。

委員：予防という点からですが、この前に参加した会議で「塩」を取り上げていました。塩は人間にとって必要不可欠であるという話からはじまり、学校給食での減塩についても紹介がありました。子供たちは運動などで多くの汗をかきますが、子供たちにとって減塩が本当にいいのかという議論になりました。また、高血圧症は塩分の摂取を控えるように指導されますが、塩を摂取してもいいという考え方もあるようです。いろいろな考え方があるかと思いますが、多方面から検討できるような資料も取りそろえていただければと思います。

会長：健康・医療情報というのは実はデリケートなものだと思います。そのため健康・医療に関するコーナーを館のどこに置くべきかということが課題となります。例えば人があまり通らないようなところに設置するのがいいと思います。文学に関する図書の近くだと人が多く集まることもありえ

るので、その辺の配慮も必要ではないでしょうか。また、以前勤務していた図書館では医療に関するレファレンスを受けるときは他の人に聞かれないようにするという配慮をしていました。久喜図書館ではいかがでしょうか。

事務局：同じようなテーマの図書が見つかりやすいような配架をしていますが、利用者がどの本を手にとっているかということが他の分野の利用者にわからないような配慮をしたような配置までは行っておりません。会長がおっしゃるようにデリケートな部分がありますので今後そのような点について配慮した資料コーナーを検討していきたいと思います。

会長：資料の配置はオープンになっていてもいいかとも思いますが、利用者がレファレンスを受ける際にその内容が他の利用者にわからないような配慮は必要ではないでしょうか。

委員：久喜図書館の配架は図書を取ってみたくなるような配置になっていて、現状でもいいかと思います。

委員：いろいろな講座・講演会を実施されていますが、受講後の「よかった」というような単なる感想ではなくて、「この話がためになった」というような内容についての感想を公表すると次回の研修会に参加してみようかという利用者の動機付けになると思います。

(3) その他

事務局より、資料3『図書館と県民のつどい埼玉2022』の結果について」に基づき説明

【質疑】

委員：会場開催の場合、会場まで時間がかかりますがオンラインで開催していただくと参加しやすい。複数の参加方法が用意されていたほうがよいと思います。オンライン配信されていないイベントについては今後実施の方法で検討されてはどうでしょうか。ライブ配信では講演会をとおして視聴しなくてはいけませんが、後日配信であれば時間があるときに分けて視聴するということができるという良さがあります。来年度の実施について検討をお願いします。

委員：北海道からの参加もあったとありましたが、どのような方法で知ったのかわかればお聞きしたい。

事務局：住所地と開催を知った方法について関係するデータをいま手元に持っていないですが、ホームページやSNSなどで全国に向けて広報をしていますので、それらを見て参加いただいたかと思います。

委員：リアルは臨場感があり、直接聞くことで得られるものも多くあると思

います。オンラインと違い会場の確保や募集人数の課題など検討しなければならぬことも増えますが、アンケートでリアル開催のみを希望する方が17%といらっしゃることもオンラインとリアルという両方で検討をお願いしたい。

会長：高柳さんの講演会を後日配信で視聴しましたが、パソコン画面に虫やいろいろなものが表示され、会場では見えないようなものを見ることができてよかったです。やはり会場と配信の良さをそれぞれ生かしてできればいいと思います。

6 閉 会 生涯学習推進課長 高津 導

以上